



▲コワーキングスペースでエコ発電体験教室



▲住民同士で送迎を行う「meemo」

施策に関するご意見を
今号の施策に関する意見や感想をお寄せください。
皆さんと一緒にまちづくりを進めていきます。
▶詳しくは、広報広聴課（☎66・1041）へ。



▲SDGsの担い手を目指す
Maizuru Bamboo Monsters



▲日星高校SDGs部で未来を描く生徒



▲安倍元内閣総理大臣が参加した授与式の様子（令和元年7月1日、首相官邸）

第7次舞鶴市総合計画に基づき、まちづくりの方向性や市の取り組み施策・事業をお伝えする「市政の今」。今回は、SDGs 未来都市の取り組みをお伝えします。



◆SDGsとは
最近よく「SDGs」という言葉を耳にしませんか。SDGsは「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略で、2015年の国連サミットで、日本を含む193の加盟国の全会一致で採択された「世界を変えるための17の目標」です。貧困や不平等・格差、気候変動などのさまざまな問題を解決し、よりよい未来をつくることを目指すもので、2016年から2030年までの15年間で、世界中の国々がSDGsの達成に向けて取り組んでいくことになっていきます。

◆SDGs 未来都市
世界的な目標という点、遠い世界のことのように感じてしまうかもしれませんが、全国の自治体でSDGsの取り組みは広がっています。本市も課題解決に総合的に取り組む自治体として、2016年10月が「SDGs 未来都市」

に選定されました。その中でも特に先導的な取り組みで、企業や教育機関などの連携を通じて地域の新たな価値の創出や、自律的に地域資源が磨き込まれ、地域が潤う好循環を生み出す取り組みとして「自治体SDGsモデル事業」の10自治体の一つにも選定されました。こうした中で、共助による移動手段（meemo）導入に係る実証実験やリカレント教育トライアル事業、赤れんがコワーキング事業などさまざまな取り組みを行ってきました。

◆民産学官でもSDGs
2020年には、SDGsの担い手を目指す民産学官と多様な主体からなるチーム「Maizuru Bamboo Monsters」が結成され、スマートツーリズム（※）の商品企画や地元農産物の栽培・販売を持続可能にするための取り組みなど、SDGsを基軸に入れた持続可能なまちづくりが取り組まれています。
また、日星高校では、SDGs部が創

設され、人と人とのつながり、多様な連携を学びながら地域課題の解決に取り組むなど、SDGsの取り組みは広がりを見せています。

◆持続可能なビヨンド・コロナ社会へ
市では、これまでSDGs 未来都市として民間や教育機関などと連携することで、先進技術や資本を導入し、さまざまな取り組みを行ってきました。今年度はその取り組みをさらに強化するため「舞鶴市SDGs 未来都市推進本部」を設置。今後、先進技術の導入による地域交通の利便性向上や防災機能の強化、

地域エネルギーの推進、新たなビジネス機会の創出など、SDGsの取り組みを加速させ、第7次総合計画に掲げる「ITを活用した心が通う便利で心豊かな田舎暮らし」の実現に向け取り組んでいきます。

民産学官任意組織「Maizuru Bamboo Monsters」のゼネラルマネージャーとしてSDGsに積極的に取り組むシンク・アンド・アクト(株)代表取締役の伊澤さんに質問をしてみました。

Q. なぜ今SDGsが注目されているのか。
A. 例えば、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)によると、世界の平均気温上昇を産業革命前と比較して2度以下に抑制できなければ、人類を含む全ての生物へ劇的な影響を及ぼし、再び今の状態に戻れなくなることが予想されています。世界中がこれまでのやり方に疑問と限界を感じ始めているのではないのでしょうか。

Q. 自分には関係ないことではないのか。
A. 反対に「自分には関係あることは何なのか」と自問してみると意外にとっても関係あることと出てきませんか？私は親のこと、子どものこと、地元の自然のことなど放っておけないことが急に迫ってきているように感じています。

Q. 舞鶴市の取り組みに期待することは何か。
A. 派手で目立つことでなくても、舞鶴の先人から受け継いできたもの、そして次代の子供達に残していく、長く続く時代への地元承継につながる本質的な施策を期待します。

シンク・アンド・アクト(株)
伊澤 慎一さん



※スマートツーリズム…デジタル技術を活用して、これからの消費者の観光ニーズを満たす観光サービスを提供すること